

当センター血液浄化室における透析液清浄化対策

東京女子医科大学東医療センター ME 室¹ 同内科²

○檜垣洋平 (ヒガキ ヨウヘイ)¹ 芝田正道¹ 中山友子¹ 近藤敦子¹ 吉田真理¹ 豊見山真智子¹

広瀬沙優里¹ 中野清治¹ 樋口千恵子² 佐中 孜²

【背景および目的】

透析患者の生命予後・QOL を考える上で透析液清浄化の概念は必要不可欠である。また平成 22 年 4 月より透析液清浄化における水質管理の保険点数加算が適応され、各施設においてもガイドラインに従い装置配管、洗浄剤や洗浄方法など様々な工夫をされているものと思われる。今回、当センターの血液浄化室における清浄化対策の試みについて報告する。

【方法】

これまでの定期的な RO 膜の洗浄・消毒に加え、平成 22 年 3 月より RO 水タンクおよび RO 水配管に対して、過酢酸系洗浄液ヘモクリン(ガンプロ社製)を約 500ppm に希釈し一晩封入を行った。また、RO 水滞留による細菌繁殖抑制を目的とし各サンプリングラインの抜水・流水をルーチンワークにて施行した。

【結果】

ET (エンドトキシン) 値、生菌数とも軽減した。

【考察・結語】

当センターでは RO 水ラインの消毒は自動で行うことができずマニュアル操作にて行っており、消毒剤が患者体内に混入する危険が伴うためより安全なシステムを確立することが重要である。今回実施した試みは、施行回数は少ないものの有効であると思われた。また、RO 水滞留を防止することも清浄化対策につながるものと思われた。

今後、消毒方法・施行間隔、消毒剤の適正濃度などシステムの確立やサンプリング手技・コンタミネーションを防ぎ各項目の測定精度を向上させることなどが検討課題である。